

## 社会科研究部

1 研究主題 人の営みに学び、未来を創る子どもが育つ社会科教育  
～学んだことを社会や生活に生かす学習過程のあり方～

2 研究主題について 主題に迫る視点を2つに整理し、検討を進めた。  
(1) 子どもの予想と見通しから創り上げる学習計画をもとにした単元づくり  
(2) 本気の学習問題を追究し、社会的事象の意味に迫る授業づくり

### 3 年間活動(事業)報告

#### (1) 講演会

特別講演会(3月3日) オンラインで実施

講師 横浜市立丸山台小学校 校長 新井 篤志 先生

演題 「私が社会科から学んだこと」

#### (2) 学年別研修会

- <7月>(7月 1日) 研究の方向についての共通理解(平沼小)
- <9月>(9月 9日) 全小社 学年別課題提案 (平沼小)
- 3年 栗田 一輝 先生 山下みどり台小「わたしたちのまちを火事から守るのはだれ？」  
～消防団のWさんから見える、公助・共助・自助～
- 3年 小田島 学 先生 別所小 「横浜市のうつりかわり」～横浜のまちからみる昔と今～
- 3年 東方 早紀 先生 大綱小 「横浜市と共に歩んだ大綱小」
- 4年 小池 悠 先生 希望ヶ丘小「伝統を生かした箱根のまちづくり」  
～箱根寄木細工をつくるHさんの思いに迫る～
- 4年 宮本 尚樹 先生 滝頭小 「滝頭3R夢大作戦」
- 4年 権正 倫範 先生 美しが丘小「自分たちの出すごみのゆくえを追いかけて」  
～未来のためにわたしたちができること～
- 4年 蓮實 聡太 先生 岡津小 「発見! 神奈川の魅力を探ろう」  
～250年の伝統 大山こまに迫って～
- 4年 呉屋 雄紀 先生 師岡小 「わたしたちの神奈川県のまちづくり」  
～国際交流に取り組む川崎市～
- 5年 岡崎 巨樹 先生 菊名小 「情報の今を伝える人々」  
～Kさんの報道の現場を追って～
- 5年 金澤 範明 先生 瀬戸ヶ谷小「発注支援システムを活用するSスーパーマーケット」
- 5年 宮原 美由紀先生 末吉小 「わたしたちの暮らしを支える水産業」  
～持続可能なかつお漁を目指して～
- 5年 兼田 和明 先生 附属横浜小「データが変える箱根の観光」～観光地を経営せよ!～
- 6年 関口 暁之 先生 永谷小 「わたしたちの暮らしを支える政治」  
～横浜みどりアップ計画～
- 6年 廣瀬 貴樹 先生 大門小 「戦争と人々の暮らし」  
～Mさんとその家族の営みから考える歴史と未来～
- 6年 加藤 拓 先生 潮田小 「武士の政治が始まる」
- 6年 田澤 哲哉 先生 西が岡小 「新しい時代の幕開け」  
～生糸貿易から見る日本の近代化～
- <10月>(10月 7日) 全小社 会場校代表による報告会(平沼小)
- (10月23日) 全小社 神奈川大会(西富岡小、稲荷台小、山元小、川崎市立大谷戸小)
- <11月>(11月 4日) 実践提案(平沼小)
- 3年 笠井 俊充 先生 永田台小 「工場ではたらく人と仕事」  
～ほぼ同じ重さのパンを作るKパンのひみつ～
- 4年 鷹野 誠 先生 平沼小 「わたしたちの神奈川県」  
～自然環境を生かした三浦市のまちづくり～
- 5年 板山 涼 先生 中尾小 「獲り続ける漁業」  
～東京湾のアナゴ漁から考えるこれからの日本の水産業～

- 6年 八木 浩司 先生 南吉田小 「武士による政治が始まる」  
～鎌倉幕府と九州での戦いを追って～
- <12月> (12月2日) 実践提案 (丸山台小)
- 3年 権正 倫範 先生 美しが丘小 「横浜市の様子と移り変わり」  
～美しが丘のまちと横浜市の変化～
- 4年 村木 草太 先生 上星川小 「自然災害から箱根を守る人々」  
～わたしたちのまちの防災と、わたしたちができる防災～
- 5年 田澤 哲哉 先生 西が岡小 「情報を伝える人々とわたしたち」  
～人に寄り添い、地域をつなぐYCVの人々～
- 6年 鈴木 亮 先生 下田 「幕府が260年続いたのはなぜか」  
～参勤交代 楽ありや苦もあるさ～

(3) 神奈川県小学校教育研究会社会科研究部会夏季特別研修会 (7月31日)

<夏季特別講演会> (南公会堂)

演題 「全小社神奈川大会に期待すること ～学習指導要領全面実施の年に～」

講師 文部科学省 初等中等教育局 教育課程教科調査官 小倉 勝登先生

(4) 第二次教育研究大会【社会科研究発表大会】(2月10日)(オンラインで実施)

講師：横浜市教育委員会事務局 教育課程推進室 主任指導主事 宮野 雅樹 先生

司会：鴨居小 副校長 中野 直茂 先生

【研究発表1】 橋口 英幸 先生 (鶴見区 平安小)

テーマ「子ども一人ひとりが問題意識をもって取り組む『楽しい社会科学習』をめざして」  
～一人ひとりが問題意識をもちやすい単元構成と『切実感をもった学習問題』を生み出し解決する話し合い～  
単元名「自然災害とともに生きる」～共助していく社会の実現に向けて～ (5年)

【研究発表2】 松本 勇二 先生 (港南区 丸山台小)

テーマ「子どもが地域との「つながり」を実感するために、調査活動を核とした単元構成を目指して」  
～身近なことから地域との「つながり」や社会科の「面白さ」を感じられるように～  
単元名「横浜市のうつりかわり」(3年)

【研究発表3】 鳥山 陽子 先生 (都築区 東山田小)

テーマ「個の資質能力を育てるための見方・考え方を働かせた追究・解決する 学び合いの在り方」  
～自分の考えを表現したり、友達の考えを受けとめたりしながら、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指して～  
単元名「260年続いた江戸幕府」～大名行列と江戸幕府の支配～ (6年)

(5) 広報

①速報：研修会の経過を具体的にまとめ、活動計画の継続・深化を図るため研修会後発行

②会報：研究活動の全般について研究の経過や成果をまとめ、研究の継続・発展を図るために、  
年度末に「会報第90号」を編集・発行する予定。

③ホームページ：アドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/es-syakai/index.htm>

(6) 研究リーフレット

各学年で取り組んだ授業実践を研修会主題及び主題に迫るための視点から分析するとともに、社会科授業の具体例を掲載し、研究の深化・発展を目指す。

#### 4 研究の成果と課題

今年度は研究主題に基づき、「単元を見通す学習問題」についての子どもの予想と見通しを生かした学習計画から社会的事象の意味に迫る「本気の学習問題」の追究、単元の終末へとつながる学習過程、社会的事象の意味に迫る授業づくりにおける「本気の学習問題」や教師の役割について研究を進めてきた。その中で、子どもの予想や見通しから学習計画を立てることによる問題の解決に向けた子どもの追究意欲の高まり、社会的事象の意味に迫るための教師の手だてなど、実践を通じて検証することができた。全小社神奈川大会にて全国の先生方からご指導いただいたことも受け、次年度の研究につなげていく。